

ながたに暮らし体験記

いつか、柴北川で エノハに出合えれば！

子供の頃から川が大好きでした。

1メートルほどの竹の先に青い網が付いたタモを30円で買い、ブリキの雑巾バケツを持って、西日本一の歓楽街を流れる那珂川でハゼや小さなウナギを相手に遊んでいました。

三十歳を過ぎて覚えた渓流釣りの魅力に、自然の中に身を置くことの素晴らしさとエノハ(ヤマメ、アマゴの方言)の美しさに魅いられてしまった。

大野川には釣果を求めて、がむしゃらに釣りをしている時によく通いました。

本流とその支流の全てとは言わないが、どんな小さな流れでも藪に這いつくばってエノハを求めた。何度も通ううちに顔見知りになった老夫婦の話に、釣りはそっちのけで土地の生活や風習や伝承に興味をもちはじめた。ハチの子取り。大蛇伝説。里神楽。どれも私には興味の尽きない話でした。

その頃から釣果第一主義から「釣れても釣れなくても」の気分が芽生えてきた。

私が育ったのは都会の繁華街だが、毎年夏休みになると郊外の親戚の家に泊まりに行くのが楽しみでした。その鎮守の森は緑に覆われ、小鳥がさえずり、小川ではカエル釣りやザリガニ釣りを日が暮れるまで楽しんだ。

柴北川を訪ねて最初に感じたのも土地の方たちの優しさと思いやりでした。でもこの溪でまだエノハには会えていません。こんな素敵な人たちが住む柴北川です。いつかこの溪でエノハに会いたいですね。

どんなに時が流れても忘れられない思い出があります。

「故郷」そんな柴北川を大切にしていきたいですね。

(共助研：青柳信幸)



← 釣りではなくカボス狩りの青柳さん
(三浦カボス園にて)

2018年10月12日発行

来ちみなあ 18号

「来ちみなあ」伝言板

花いっぱい長谷まつり(稲刈り)の予告

- 恒例の「花いっぱい長谷まつり・稲刈り」を、10月21日(日)の午前10時から行います。(少雨決行です)
- 残念ながら、先日の台風被害で「みんなの田んぼ」の一部が被災してしまいましたが、稲刈り、地元食材の昼食、アトラクション等はいつも通りにワイワイとやります。
- 6月の田植えに続いて、長谷の“元気”を皆さんにお伝えしますので、ふるってご参加ください。

秋はイベント多し！ 先ずは稲刈りで。

炎夏のほとぼりがやっと冷めた9/22(土)に、久しぶりの「コダワリトーク」を開催しました。

当日のトーク人は、共助研に9月に入会したばかりのルーキーながら、見かけも語り口も年季の入った風流人の青柳さん。参加者は、70余年の人生の多くを川や海で過ごした釣り達人の穏やかな語り口に聞き入りつつも、柴北川の自然の危うさにも気付かされ、あつと言う間の30分でした。

今回の通信は、語った側と聞いた側のそれぞれから執筆していただきましたが、これから年末にかけてもイベントが目白押し「柴北川を愛する会」と「共助研」、それぞれのイベントごとで互いを意識しつつサポートしながら、連携していきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。(波木健一)

「来ちみなあ」は、柴北上の県道から北に入った山際にある「来ちみなあハウス」(和洋室5室、ダイニングキッチン、バス、トイレ付住宅)での活動を紹介する通信です。発行：「来ちみなあハウス」店子グループ

ながたに風

秋、本番

釣り名人の青柳信幸さんによる第7回「コダワリトーク」では、釣りのお話は勿論のこと、自然環境の大切さにまで話を広げて熱く語っていただきました。柴北川のゴミ拾いや竹林整備等を実践している私達には、共感するところが多々あり有意義なトークでした。

さて、秋本番を迎えた流域のあちこちの田んぼでは、稲刈りが始まりました。

昨年に続き台風の被害をまともに受けた「みんなの田んぼ」は、今、無残な姿を晒しています。田んぼの半分以上が浸かり、昨年同様に竹屑・木屑・土砂等が流れ込み、殆どが使えなくなっています。

昨年と同じようにイベントを中止しようかとの声もありましたが、幸いなことに「サブ田んぼ」が使えますので思い切って実施することになりました。自然災害の現状を見ていただくのも、農業の大変さを知っていただくいい機会と捉え、「みんなの田んぼ」を見ていただき、何かを感じていただけたらと思います。21日(日)10時から行いますので、沢山の方のご参加を「みんなの田んぼ」でお待ちしています。

収穫の最中ですが、豊作に感謝するお祭も始まります。

14日(日)は黒松阿蘇神社・21日(日)は柴北熊野神社で神楽や獅子舞の奉納があります。

28日(日)は栗ヶ畑祇園社の獅子保存会所有の獅子頭新調披露が11時から行われます。

秋風を感じながら、鎮守の森に祭囃子を聞きに来ませんか。

(柴北川を愛する会：渡辺雪法)



▲ 黄金色に染まった長谷の秋